

# 長崎県県政世論調査 調査結果報告書

平成30年11月



# 目次

## 第Ⅰ章 調査の概要

### 1 調査概要

1) 調査目的	1
2) 調査対象・地域	1
3) 調査方法	1
4) 標本抽出	1
5) 発送数・回収数	1
6) 調査実施期間	1
7) 調査主体	1
8) 報告書の見方	2
9) 分析における地域区分	2
10) 回答者属性	2

## 第Ⅱ章 調査結果要旨

### 1 日常生活の満足度・県政全般の重要度・満足度について

日常生活の満足度	7
県政全般の重要度・満足度	7

### 2 分野別の取組について

人口減少対策について	7
健康づくりについて	7
スポーツの振興について	8
子育て支援について	8
だれもが活躍できる社会づくりについて	8
災害対策について	8
暮らしの安心・安全について	9
観光・交流人口の拡大について	9
県産品の利用について	9
離島との交流について	9
公共交通について	9
環境政策について	9
県職員などについて	9

## 第Ⅲ章 調査結果

### 1 日常生活の満足度

日常生活の満足度	10
日常生活の優先順位	16

### 2 県政全般の重要度・満足度

県政の項目別満足度	20
県政全般の重要度	21
県の政策の総合的な満足度	25

### 3 分野別取組について

人口減少対策について	27
雇用対策について	33
健康づくりについて	37
スポーツの振興について	42
子育て支援について	46
だれもが活躍できる社会づくりについて	52
災害対策について	63
暮らしの安心・安全について	70

観光・交流人口の拡大について .....	77
県産品の利用について .....	81
離島との交流について .....	90
公共交通について .....	96
環境政策について .....	101
県職員などについて .....	102
調査票 .....	巻末



# I 調査概要

# 調査概要

## 1. 調査目的

本調査は、県の政策に対する県民の満足度や、日常生活や意識の変化などを定期的に把握し、県政運営のための基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 調査対象・地域

長崎県内に居住する満18歳以上の男女個人

## 3. 調査方法

郵送による自記入式調査、及びネット回答調査併用

## 4. 標本抽出

各市町住民基本台帳による等間隔無作為抽出（平成29年年齢別推計人口により割付）

	総数	比率 (%)	10代 (18・19歳)	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳 以上	対象人口	割付数	最終 割付
長崎市	421,612	31.1	7,695	38,717	42,045	53,771	53,891	67,919	48,579	48,618	361,235	935	950
佐世保市	251,703	18.6	4,986	21,256	27,940	32,173	29,567	38,947	28,939	27,301	211,109	558	555
島原市	44,578	3.3	695	2,581	4,329	5,321	5,959	7,411	5,650	5,587	37,533	99	99
諫早市	136,430	10.1	2,878	10,213	15,019	18,291	17,874	21,374	15,007	12,906	113,562	302	299
大村市	93,834	6.9	2,123	8,500	11,334	13,159	11,384	12,837	8,823	7,294	75,454	208	198
平戸市	30,787	2.3	459	1,422	2,415	3,230	4,123	5,678	4,469	4,606	26,402	68	69
松浦市	22,601	1.7	362	1,476	2,072	2,497	2,830	4,085	2,827	2,965	19,114	50	50
対馬市	30,345	2.2	294	1,473	2,948	3,512	3,952	5,711	4,036	3,820	25,746	67	68
壱岐市	26,268	1.9	415	1,093	2,427	3,013	3,223	4,448	3,534	3,763	21,916	58	58
五島市	36,020	2.7	430	1,334	2,873	3,999	5,091	6,895	5,024	5,524	31,170	80	82
西海市	27,802	2.1	447	1,975	2,433	2,879	3,450	4,921	3,604	4,385	24,094	62	63
雲仙市	43,011	3.2	801	2,467	4,115	4,874	6,015	7,400	5,052	5,589	36,313	95	96
南島原市	44,793	3.3	741	1,861	3,676	4,945	6,094	8,139	6,275	6,560	38,291	99	101
長与町	42,323	3.1	932	3,747	4,854	5,987	5,524	6,048	4,175	3,291	34,558	94	91
時津町	29,933	2.2	781	2,588	3,664	4,306	3,382	4,206	3,005	2,073	24,005	66	63
東彼杵町	8,078	0.6	120	491	714	902	1,105	1,513	1,014	1,092	6,951	18	18
川棚町	13,759	1.0	242	956	1,405	1,752	1,745	2,263	1,675	1,450	11,488	31	30
波佐見町	14,694	1.1	251	1,120	1,616	1,717	1,957	2,405	1,680	1,505	12,251	33	32
小値賀町	2,440	0.2	20	59	191	201	277	561	379	489	2,177	5	6
佐々町	13,662	1.0	293	966	1,656	1,846	1,510	2,170	1,405	1,153	10,999	30	29
新上五島町	18,877	1.4	258	592	1,334	2,157	2,834	3,662	2,823	2,808	16,468	42	43
長崎県	1,353,550	100.0	25,223	104,887	139,060	170,532	171,787	218,593	157,975	152,779	1,140,836	3,000	3,000

## 5. 標本数・回収数

発送数：3,000

回収数：1,837（回収率 61.2%）

## 6. 調査実施期間

平成30年8月1日（水）～平成30年8月31日（金）（31日間）

## 7. 調査主体

長崎県総務部県民センター

## 8. 報告書の見方

- (1) 比率は百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。このため、百分率の計が 100%にならない場合がある。
- (2) 基数となる実数は n として掲載した。その比率は件数を 100%として算出した。
- (3) 1 人の回答者が複数回答を行う設問では、その比率の合計が 100%を上回ることがある。
- (4) 図表中には、回答者数が非常に少ない場合がある。このような場合には、回答比率の数字が動きやすく、厳密な比較をすることが難しいので、回答の傾向を見る程度になる。

## 9. 分析における地域区分

集計データの地域分析においては、県内を 5 地域に区分し、その地域特性等について考察を行った。地域区分については以下のとおりとした。

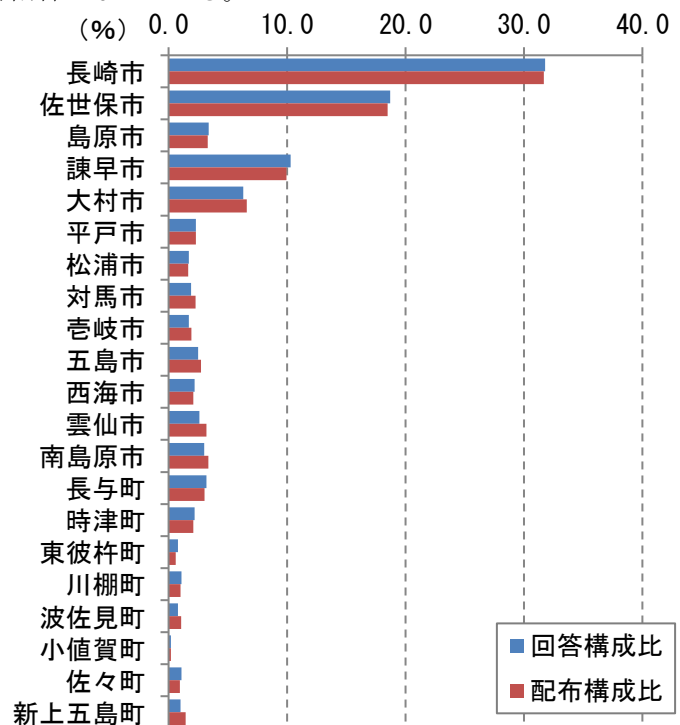
地域	市 町
県南地域	長崎市、西海市、長与町、時津町
県央地域	諫早市、大村市
県北地域	佐世保市、平戸市、松浦市、東彼杵町、川棚町、波佐見町、佐々町
島原半島地域	島原市、雲仙市、南島原市
離島地域	対馬市、壱岐市、五島市、小値賀町、新上五島町

## 10. 回答者属性

### 【居住地】

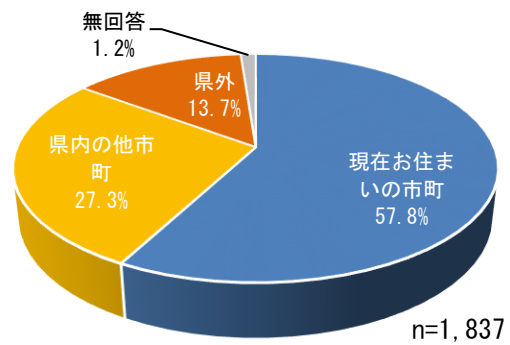
居住地は、「長崎市」が 31.8%で最も多く、次いで「佐世保市」18.7%、「諫早市」10.3%と続いております。ほぼ人口割合（配布割合）に応じた回答割合となっている。

	市町名	回答数	%
1	長崎市	584	31.8
2	佐世保市	343	18.7
3	島原市	62	3.4
4	諫早市	190	10.3
5	大村市	116	6.3
6	平戸市	42	2.3
7	松浦市	31	1.7
8	対馬市	35	1.9
9	壱岐市	32	1.7
10	五島市	46	2.5
11	西海市	40	2.2
12	雲仙市	47	2.6
13	南島原市	55	3.0
14	長与町	59	3.2
15	時津町	40	2.2
16	東彼杵町	15	0.8
17	川棚町	21	1.1
18	波佐見町	14	0.8
19	小値賀町	4	0.2
20	佐々町	20	1.1
21	新上五島町	19	1.0
	無回答	22	1.2
	合計	1,837	100.0



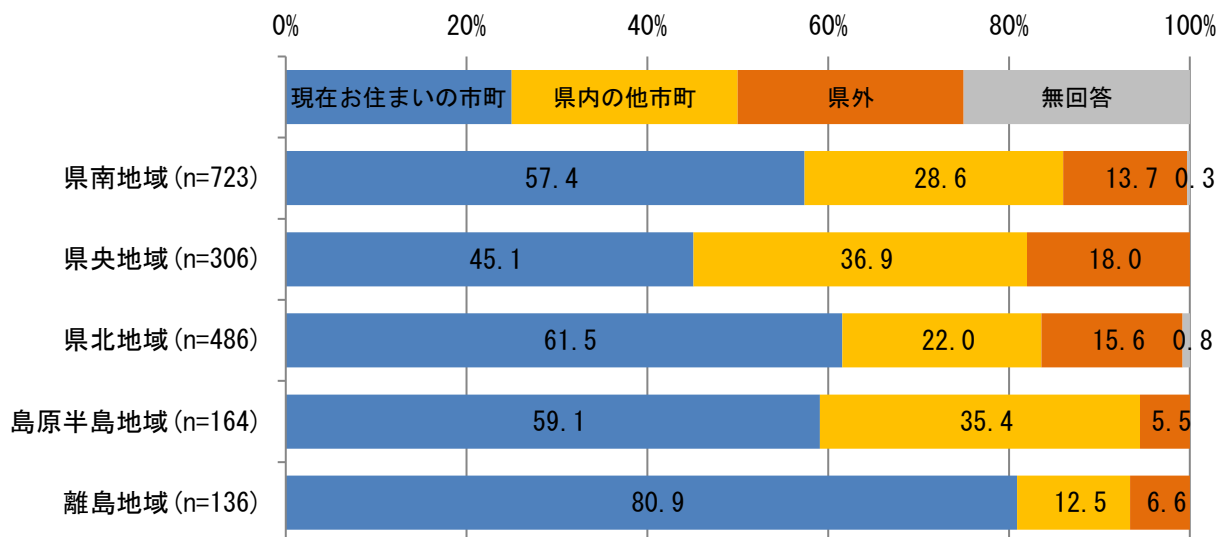
## 【出身地】

出身地は、「現在お住まいの市町」が57.8%で最も多く、次いで「県内の他市町」27.3%、「県外」13.7%となっており、全体の85.1%が本県出身者である。このことから県内在住者の多くが本県出身者であると推測できる。



### 〔居住地区別：出身地〕

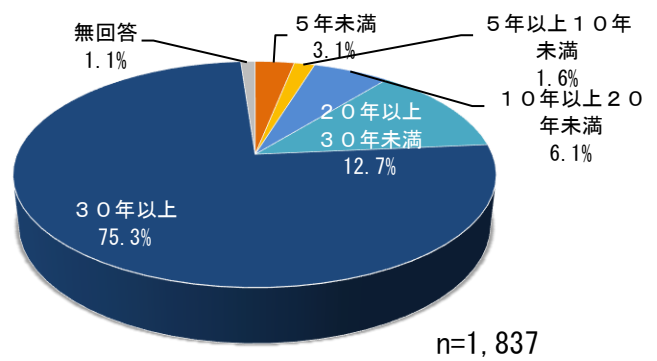
出身地に現在居住している人の割合をみると、離島地域の80.9%が最も高く、2番目の県北地域より約20ポイント高い。離島地域は他地域よりも出身地に住み続ける傾向が高いことがうかがえる。





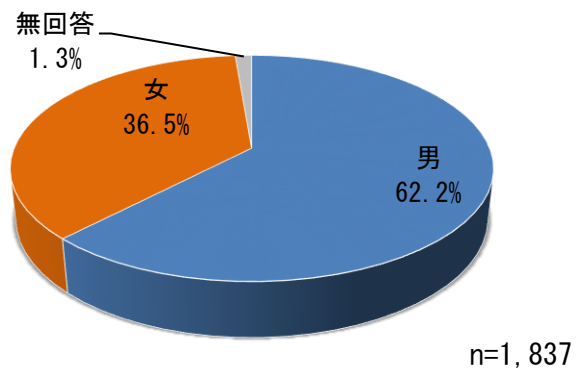
## 【居住年数】

居住年数は、「30年以上」が75.3%で最も多く、次いで「20年以上30年未満」12.7%、「10年以上20年未満」6.1%となっており、全体の94.1%が10年以上の居住者である。



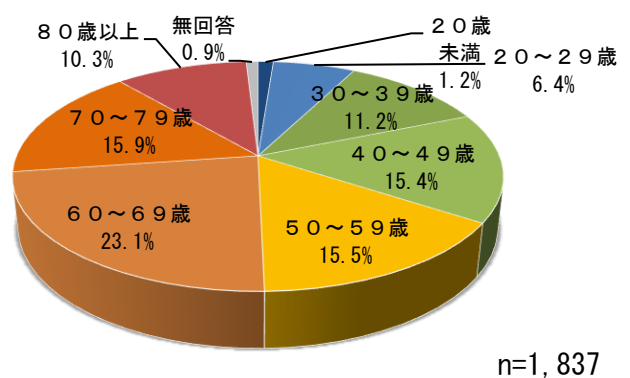
## 【性別】

性別は、男性62.2%、女性36.5%と男性の割合が25.7ポイント高くなっている。



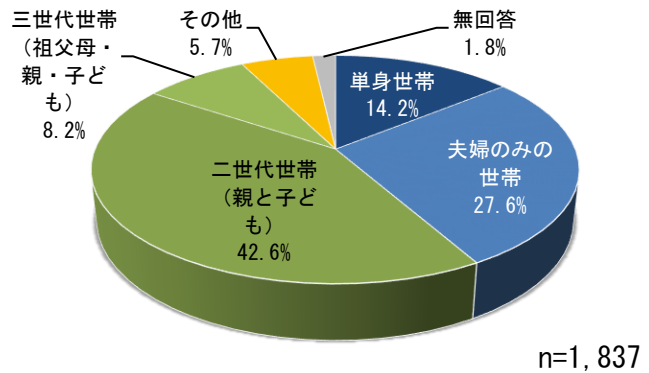
## 【年齢】

年齢は、「60～69歳」が23.1%で最も多く、次いで、「70～79歳」15.9%、「50～59歳」15.5%、「40～49歳」15.4%の順で続いており、生産年齢人口（18～59歳）は49.7%、高齢者人口（60歳以上）は49.3%となっている。



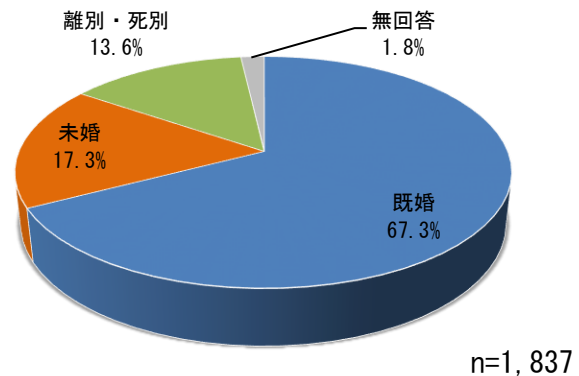
## 【世帯別】

世帯種別は、「二世世代世帯（親と子ども）」が42.6%で最も多く、次いで、「夫婦のみの世帯」27.6%、「単身世帯」14.2%、「三世世代世帯（祖父母・親・子ども）」8.2%の順となっている。

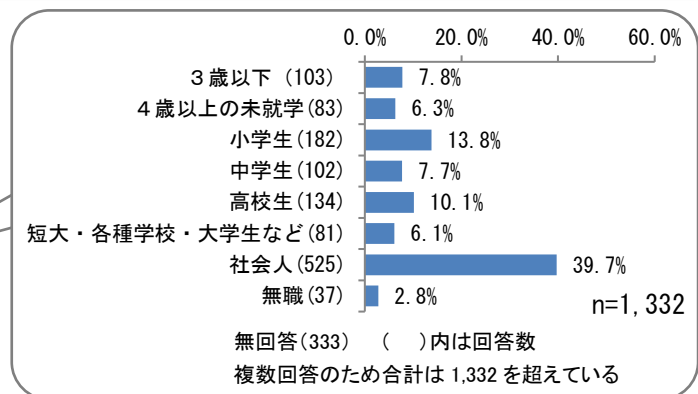
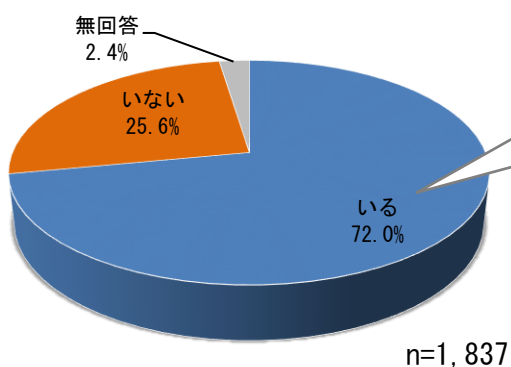


## 【婚姻状況】

婚姻状況は、「既婚」が67.3%で最も多く、次いで、「未婚」17.3%、「離別・死別」13.6%の順となっている。



## 【年齢】

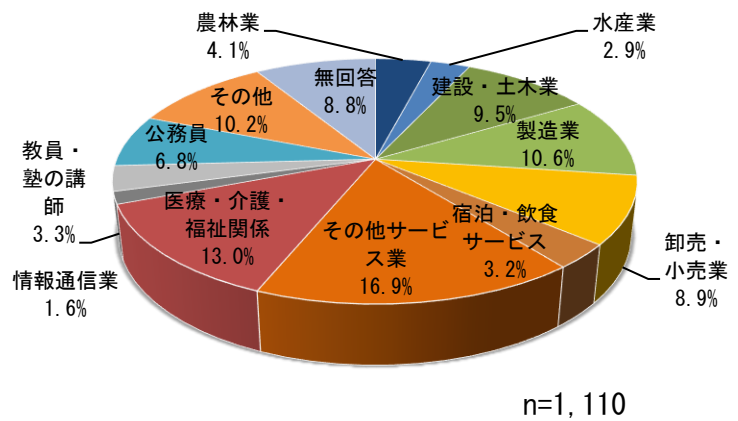
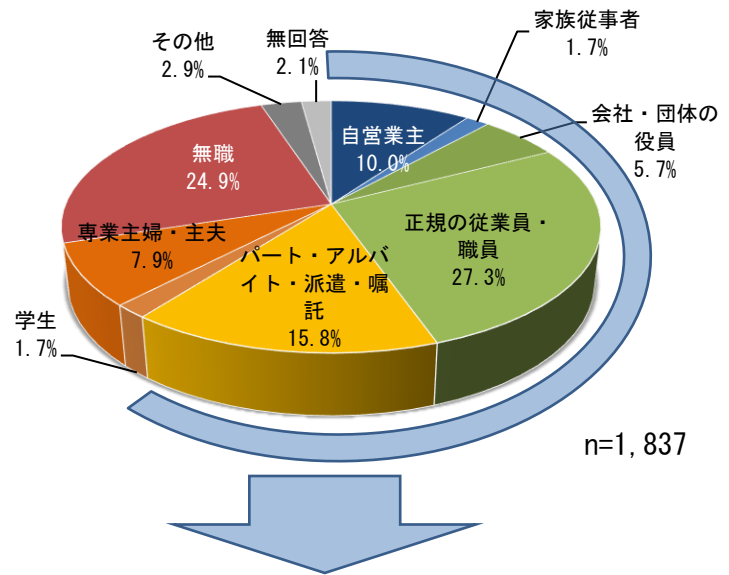


子どもの有無の割合は、「いる」72.0%、「いない」25.6%となっており、「いる」と回答した1,332人のうち、同居している子どもの割合が最も高かったのは「社会人」の39.7%、次いで、「小学生」13.8%、「高校生」10.1%、「3歳以下」7.8%、「中学生」7.7%、「4歳以上の未就学」6.3%、「短大・各種学校・大学生など」6.1%、「無職」2.8%の順となっている。

## 【職業・業種】

職業は、「正規の従業員・職員」が27.3%で最も多く、次いで、「無職」24.9%、「パート・アルバイト・派遣・嘱託」15.8%、「自営業主」10.0%の順で続いている。

また、有職者の業種は「その他サービス業」が16.9%で最も多く、次いで、「医療・介護・福祉関係」13.0%、「製造業」10.6%、「その他」10.2%、「建設・土木業」9.5%の順で続いている。





## Ⅱ 調査結果要旨

## 【日常生活の満足度・県政全般の重要度・満足度について】

### 【日常生活の満足度】

日常生活の総合的な満足度は、満足度が不満度を大きく上回っている。

分野別では「住んでいる家（住宅）」や「自分および家族の健康」は満足度が高く、「老後・将来の生活設計」、「収入」は不満度が高くなっており、前回調査と同じ傾向を示している。

### 【県政全般の重要度・満足度】

県民の考える政策の重要度の上位項目は、前回調査と比べ項目の入れ替わりや順位の変動があった。今回新たに項目として追加した「人口減少対策」が1位となり、前回調査で1位であった「福祉の充実」が2位に順位を下げた。また、県政の総合的な満足度は、前回とほぼ同じ割合になっている。

## 【分野別の取組について】

### 【人口減少対策について】

少子高齢化・人口減少の影響が「ある」と回答したのは約8割。影響を感じる場面は、「子供が少なくなった。小学校や保育園等が減った」が回答の約6割を占め、次いで「空き家や空き地が増えた」、「商店が閉店し買い物がつらくなった」が上位で続いている。

今後、人口減少に歯止めをかけるために、より強化すべきと思う取組は、「良質な働く場所の創出・確保（若者の雇用対策、企業誘致等）」、「結婚・出産・子育てのしやすい環境の整備」、「道路等のインフラ整備や公共交通の充実」となっている。

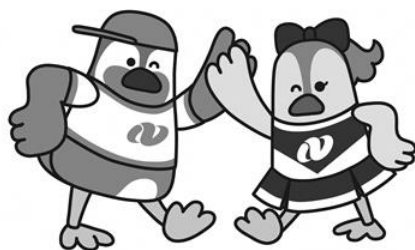
### 【雇用対策について】



就職先として選ぶ（んだ）のは、県内就職が約5割、県外就職約3割。選んだ理由は、県内・県外ともに「希望する職種、業種の就職先があったから」がトップ。

若者の県内就職を増やすために最も必要なことは、「給与等の処遇改善」、「大手企業の誘致」、「県内企業の職場環境の改善」となっている。

### 【健康づくりについて】



健康上の理由で日常生活に何らかの影響がある（「少々影響がある」＋「大いに影響がある」）と回答したのは約3割となっている。普段から健康の維持・増進のために行っていることは「定期的な健康診断」、「バランスの取れた食事」、「定期的な運動・スポーツ」であったが、一方「何もやっていない」も約2割あった。

長崎県が行っている健康づくりのための取組認知度は、「県民体操（がんばらんば体操）」の普及が最も高くなっている。

## 【スポーツの振興について】



週1回以上の運動の実施は約4割、ほとんど行ってないが約4割とほぼ同じ割合となっている。

運動やスポーツを行う際に、困っていることや妨げになっていることは、「仕事や家事で時間が取れない」、「身近に施設がない」、「スポーツに費用をかける余裕がない」となっている。

## 【子育て支援について】



「ココロねっこ運動」の取り組みで最も高い項目の割合は、家庭で『早寝、早起き、朝ご飯』の生活のリズムの確立が約3割、地域で「あいさつ、声かけ運動を行っている」が約2割となっている。

里親制度の取り組みに対し、里親制度に興味あるのは約2割。制度について知りたいことは「里親制度の内容」、「県内里親の実情・体験談」、「養育にかかる費用負担（公費負担額）」であった。

## 【だれもが活躍できる社会づくりについて】



普段の生活の中で、男女不平等であると感じることが「ある」のは約5割となっており、それを感じる場面は「社会通念、慣習・しきたり」、「職場」、「家庭生活」が多い。

「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」の認知度は約4割、「合理的配慮」の認知度は約3割。

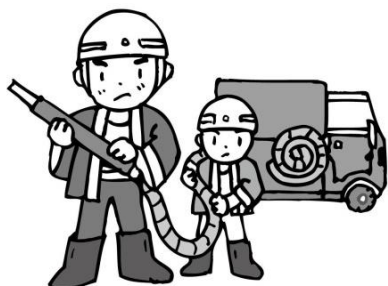
高齢期を迎えたときに行いたいことは、「趣味」、「可能な限り働きたい」が上位となっている。

生涯学習への参加率は約2割となっている。

「LGBT」の認知度は約5割、「アライ」の認知度は約1割となっている。また、性的少数者への差別をなくす取組は、「周知・啓発イベント」、「学校教育」、「法律や条例の制定」となっている。



## 【災害対策について】



自然災害に対する備えは、「学校や公園など身近な避難場所を確認している」、「非常持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、衣服等）を準備している」。一方「特に備えはしていない」が約4割あった。

また、消防団入団の意向は約1割と低く、入団しない理由は「体力がない」、「職業・学業・家事・育児との両立が困難」が挙げられている。

## 【暮らしの安心・安全について】

---

「食品の安全」に対する安心度は約7割と高い。一方、不安度は約1割あり、不安を感じることは、「輸入食品」、「食品添加物」、「残留農薬」が挙げられている。

また、長崎県の治安に対する安心度は約7割と高い。その一方で、県民が身近に不安を感じる犯罪は「振り込め詐欺等の特殊犯罪」、「インターネット上の犯罪」、「空き巣等の犯罪」が挙げられている。

## 【観光・交流人口の拡大について】

---

世界遺産を活かした観光地づくりなどの取組で特に配慮すべき事項として、「来訪者の世界遺産に対する価値の理解促進やマナーの周知」、「交通や案内整備など、世界遺産に係る受入環境の整備」、「世界遺産の適切な保護・保全」が挙げられた。

I Rの導入に向けた取組の認知度は約6割となっている。また、I R施設での催しに対する期待は、「コンサート」、「ミュージカル」、「演劇」が挙げられている。

## 【県産品の利用について】

---

「長崎県産酒による乾杯の推進に関する条例」の認知度は約3割、認知者のうち約5割が乾杯に活用している。

「長崎四季畑」の認知度は約1割と低い。認知者のうち商品購入者は約3割。未購入の理由は「近隣商店に置いていない」がトップ。また、「長崎俵物」の認知度は6割と高い。認知者のうち商品購入者は約5割となっているが、未購入の理由は「近隣商店に置いていない」がトップ。

## 【離島との交流について】

---

県内離島の訪問意向は約6割と高い。その訪問理由は「自然景観（海、山など）」、「食（新鮮な魚、郷土料理など）」、「歴史文化（世界遺産、日本遺産など）」が多い。訪問したい島は「上五島」がトップ。

## 【公共交通について】

---

主に利用する公共交通機関は「路線バス」がトップ。一方、「使用しない」も約3割あった。公共交通機関の利用頻度は年に数回程度が約4割であった。

公共交通機関の利用の満足度は満足約2割、不満が約3割であり、不満理由は「ダイヤや便数が利用しにくい」が約7割でトップとなっている。

## 【環境政策について】

---

重要と考える取組は、「エネルギー（再生可能エネルギーの利用促進）」が約4割でトップとなっている。

## 【県職員などについて】

---



県の広報誌『つたえる県ながさき』の読者は約5割となっている。県の職員が持つべき意識や能力は、「柔軟性・民間的な意識」、「県民へのサービス意識」、「政策形成能力・企画力」が挙げられている。



### Ⅲ 調査結果

# 1. 日常生活の満足度

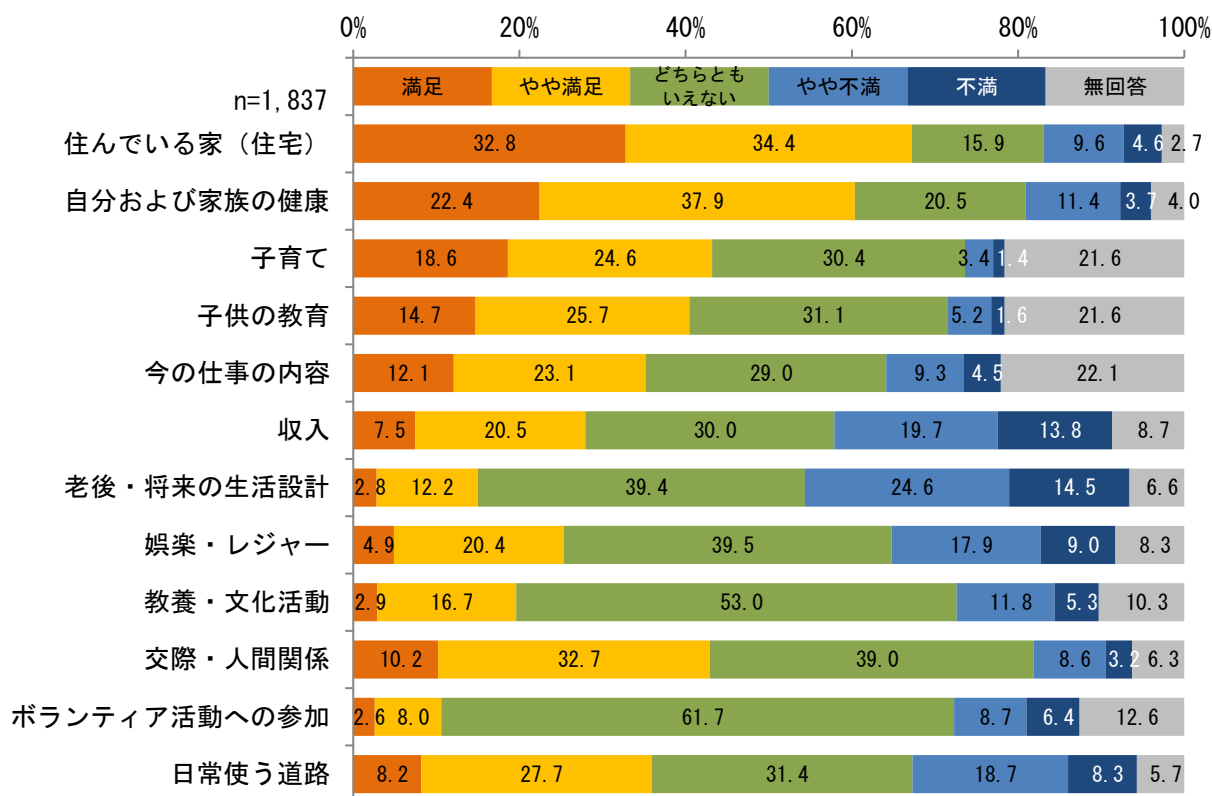
県民の日常生活や意識の変化を定期的に把握し、今後の県政運営のための基礎資料とするため、日常生活の満足度と現在の日常生活の総合的な満足度についてお尋ねしました。

今回の調査で、日常生活の総合的な満足度は、満足度が不満度を大きく上回っており、前回調査に比べやや高くなっています。

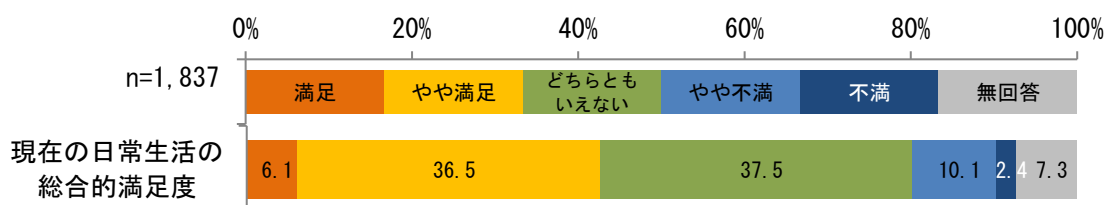
分野別では「住んでいる家(住宅)」や「自分および家族の健康」は満足度が高く、「老後・将来の生活設計」、「収入」は不満度が高くなっています。

## 【日常生活の満足度】

問 1 日常生活についての満足度についてお聞きます。  
(それぞれ該当するものに○を1つ)



問 2 現在の日常生活の総合的満足度



## 【日常生活の総合的な満足度】

日常生活の総合的な満足度は、「満足」「やや満足」の合計（満足度）が42.6%、「やや不満」「不満」の合計（不満度）が12.5%と満足度が不満度を大きく上回っている。

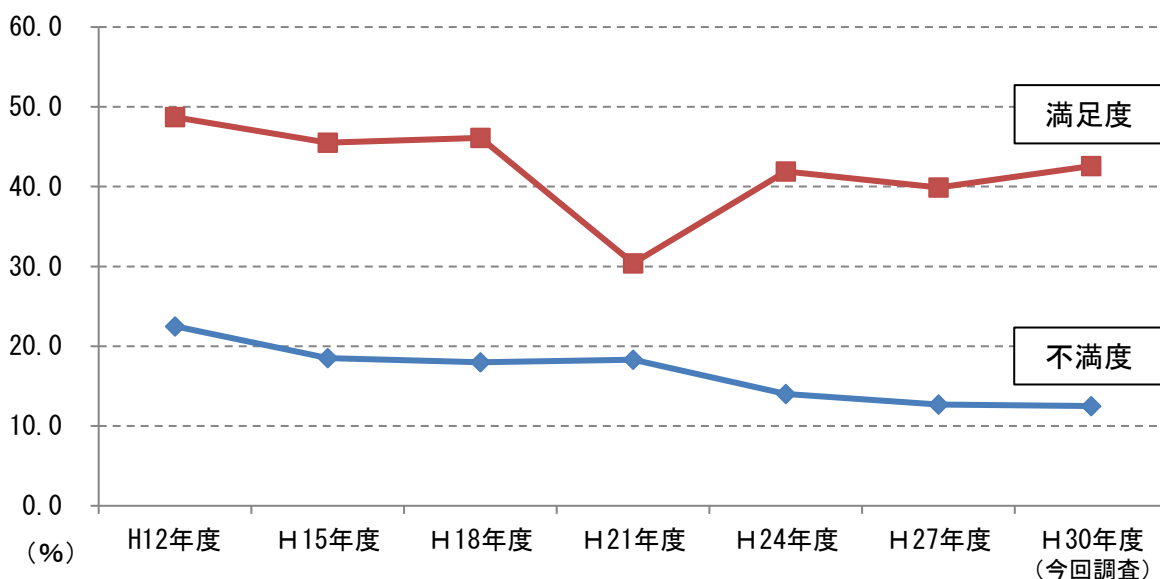
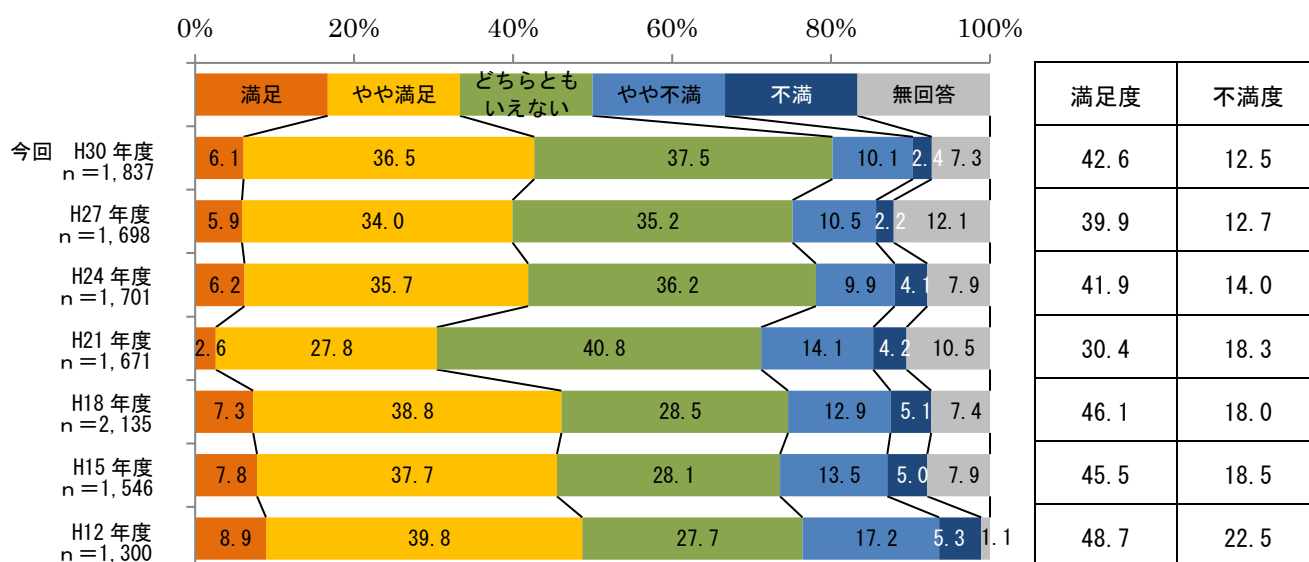
### 〔経年比較〕

前回調査と比較すると満足度は2.7ポイント増加し、不満度はほぼ前回と変わらない。また、「どちらともいえない」は2.3ポイント増加し、「無回答」は4.8ポイント減少している。

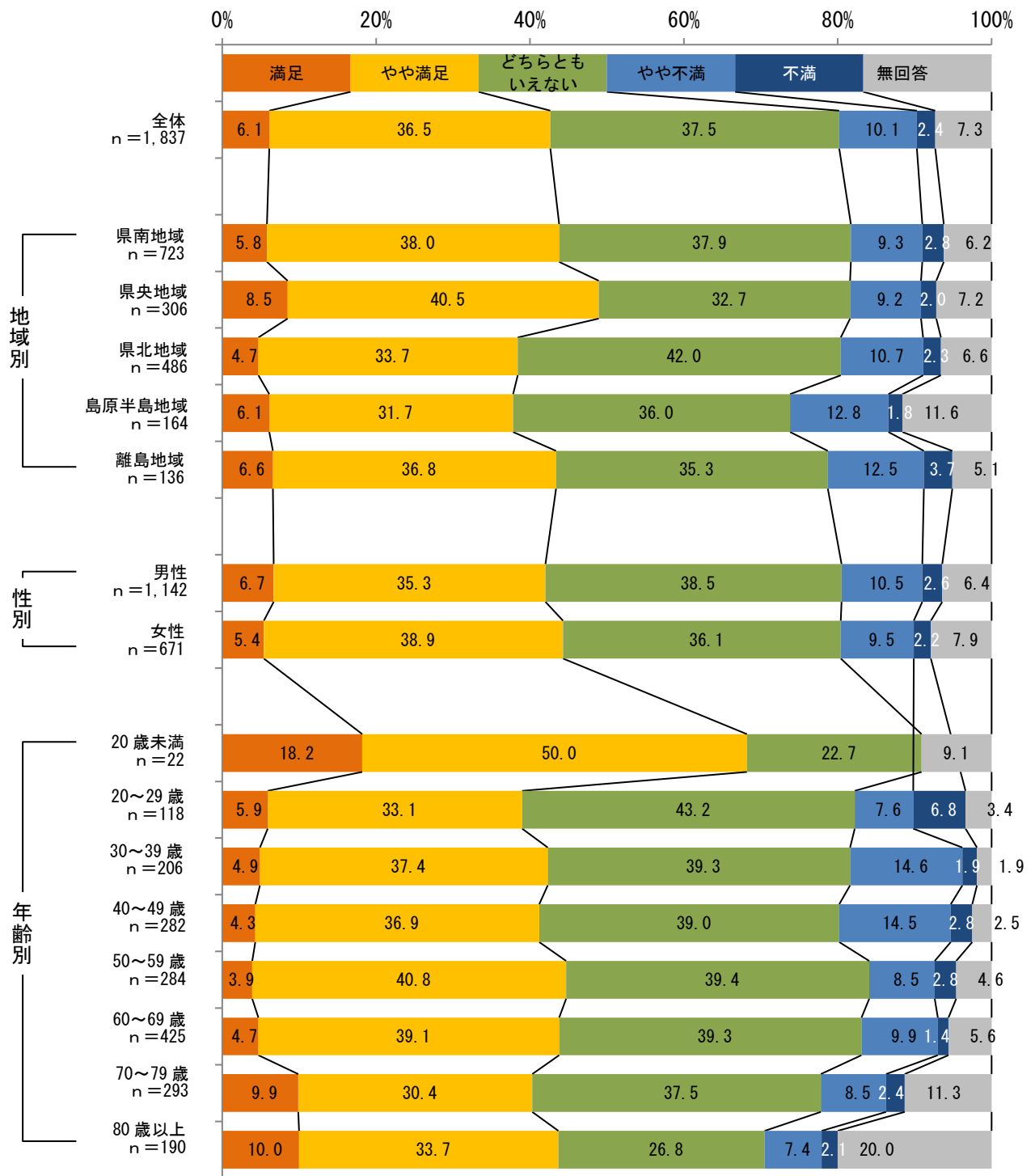
平成12年度からの経年変化をみると、満足度は48.7%から平成21年度の調査で大きく落ち込んだが、その後は40%前半で推移している。また、不満度は一貫して減少傾向にあり、今回の調査結果が最小値となっている。

一方、「どちらともいえない」は27.7%から37.5%と増加し、「無回答」は1.1%から7.3%に増加しており、満足・不満とするよりも判断を保留する傾向も増えている。

〔日常生活満足度の経年比較〕

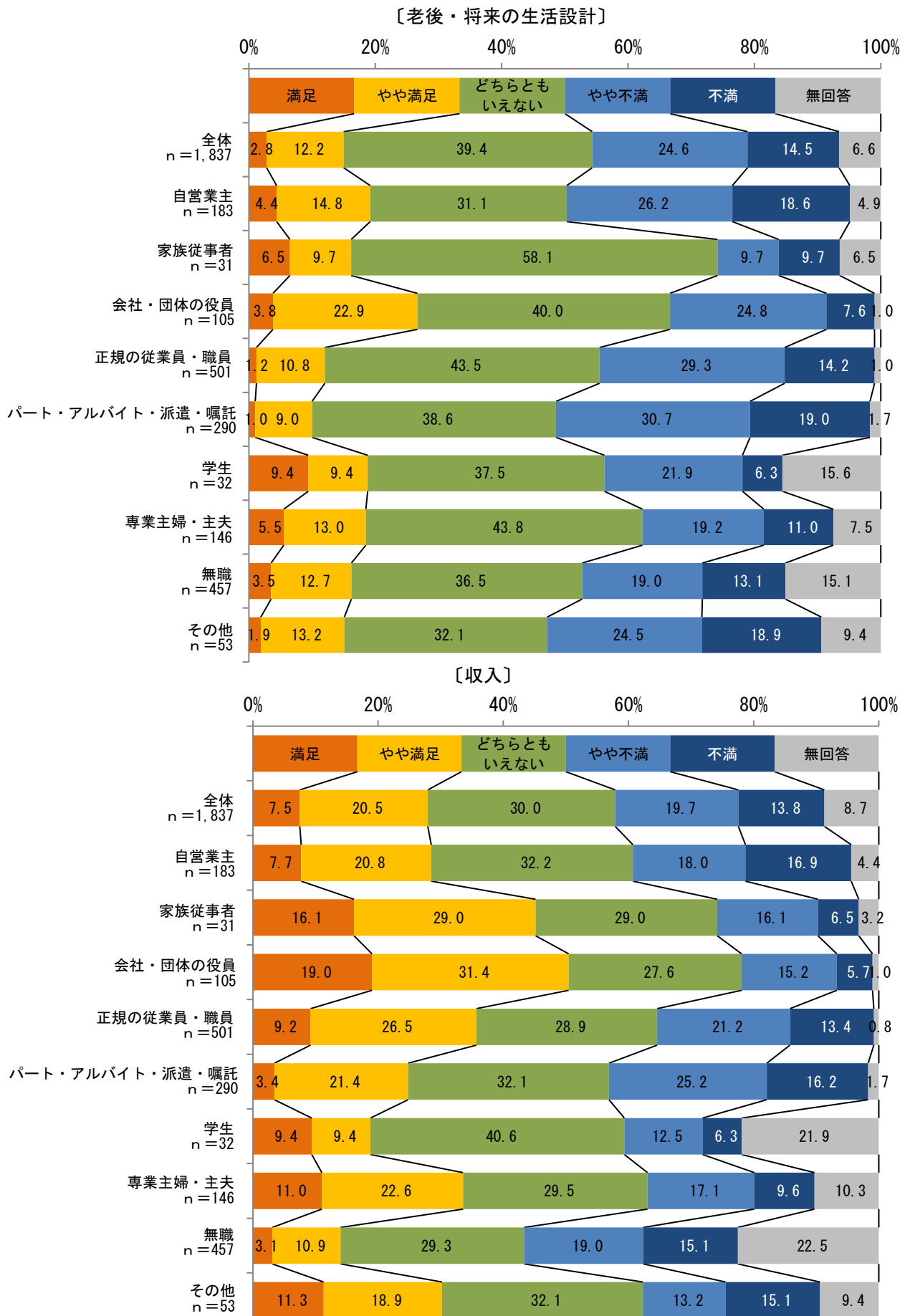


[地域別・性別・年齢別日常生活満足度比較]

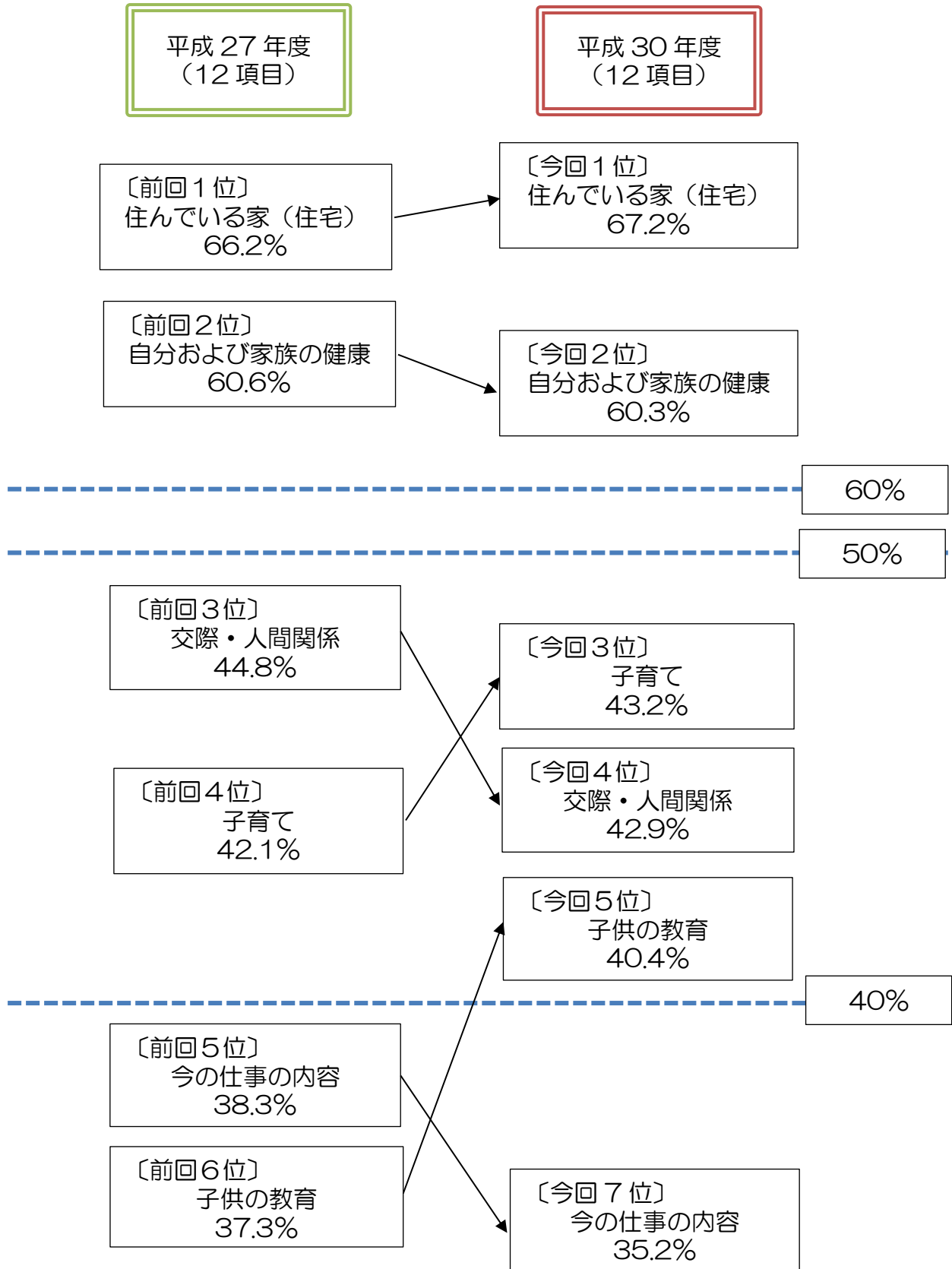


## 【職業の項目別満足度】

日常生活の不満足度が上位の「老後・将来の生活設計」「収入」を職業別に見ると、「パート・アルバイト・派遣・嘱託」の不満足度が高くなっている。



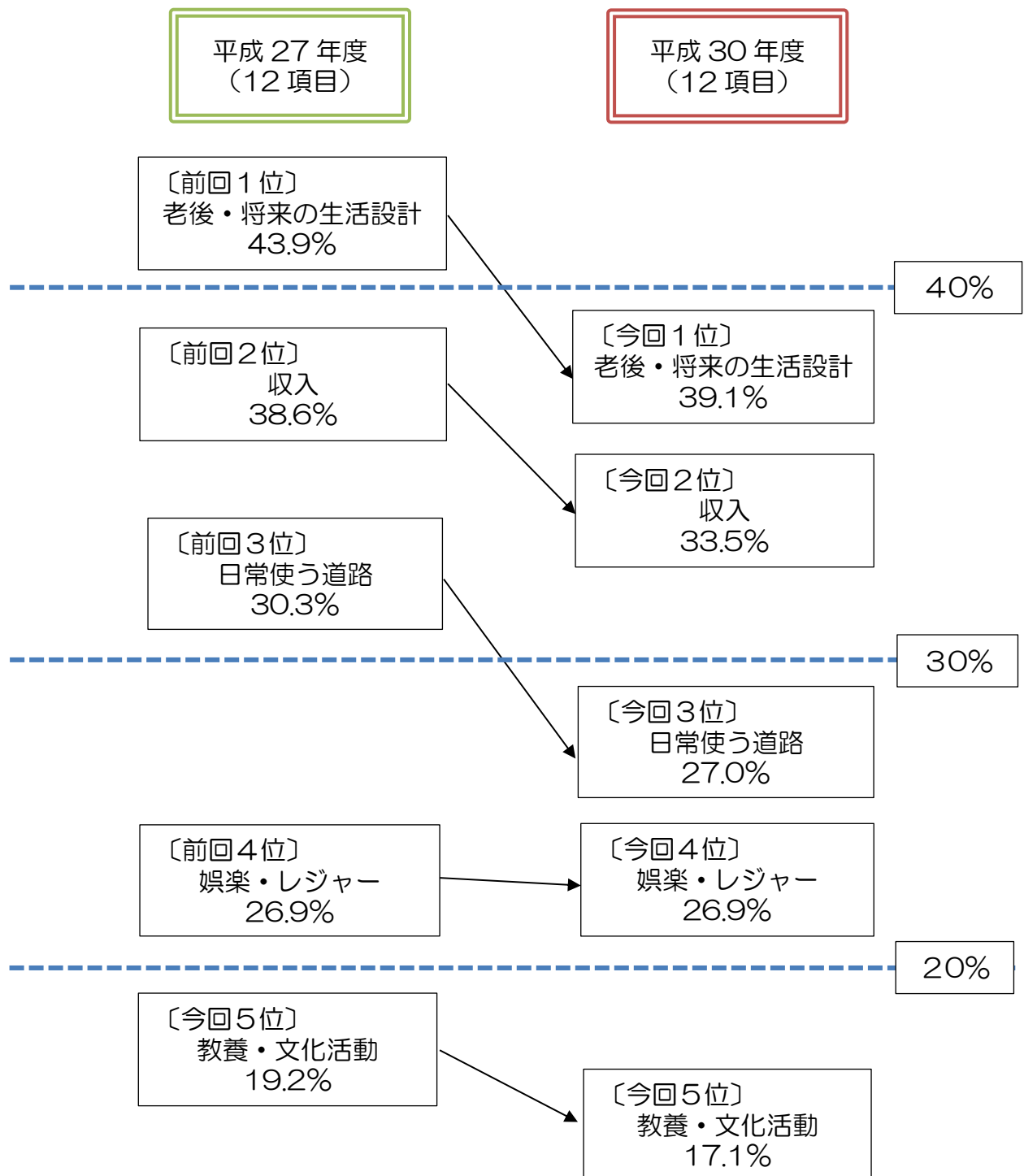
「日常生活の満足度」上位 5 項目の前回調査との比較



日常生活の満足度上位 5 項目の前回調査との比較では、3~5 位の項目に変動があり、前回 3 位の「交際・人間関係」と 4 位の「子育て」の順位が入れ替わり、前回の 6 位から 5 位に「子供の教育」が繰り上がっている。

また、満足度が増加したのは「住んでいる家 (住宅)」「子育て」「子供の教育」の 3 項目であり、他の 2 項目の満足度は減少している。

「日常生活の不満度」上位5項目の前回調査との比較



日常生活の不満度上位5項目の前回調査との比較では、順位の変動はなく、不満度は4項目で減少しており、「娯楽・レジャー」のみ前回と同じく26.9%であった。

また、不満度の減少は「収入」がマイナス5.1ポイントで最も大きく、次いで「老後・将来の生活設計」「日常使う道路」「教養・文化活動」の順となっている。

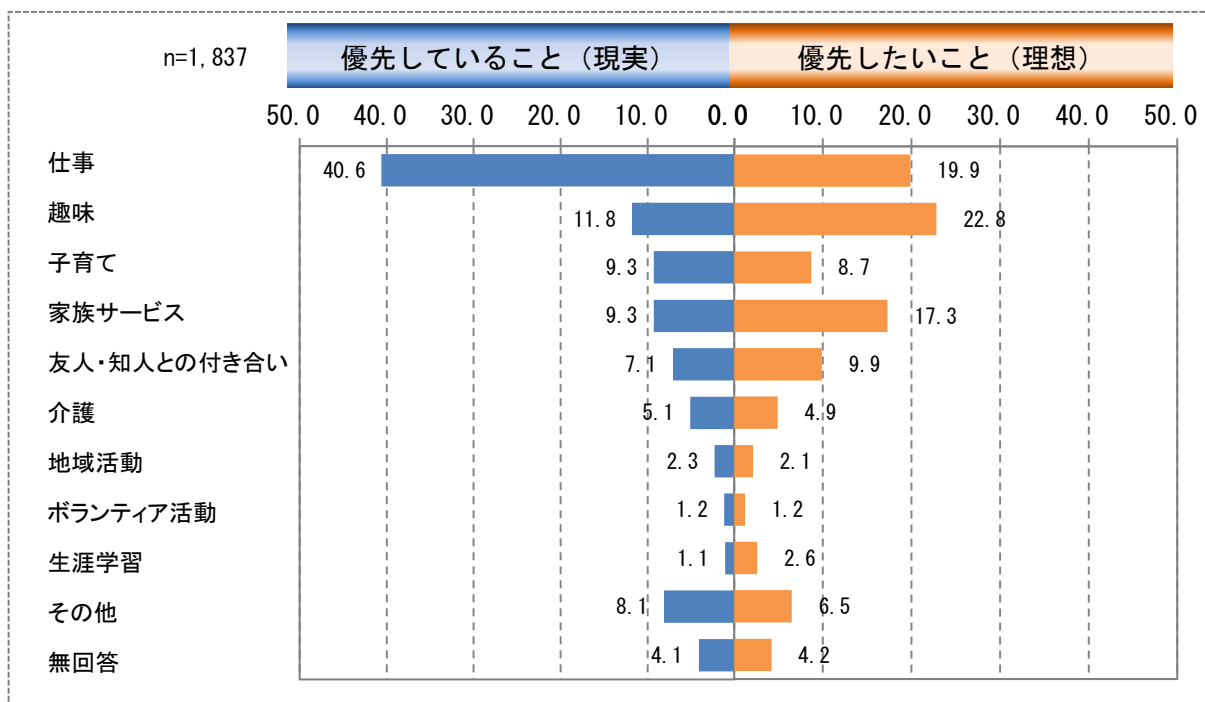
## 【日常生活の優先順位】

問 3

あなたの日常生活についてお聞きします。

3-1 現在1番優先していることは何ですか。(○は1つ)

3-2 今後の希望として、1番優先したいことは何ですか。(○は1つ)



### 〔全体〕

日常生活で優先していること（現実）は、「仕事」が40.6%で最も多く、次いで、「趣味」「子育て」「家族サービス」の順が続いている。

一方、優先したいこと（理想）は「趣味」が22.8%で最も多く、次いで、「仕事」「家族サービス」の順が続いている。

また、優先したいことの理想と現実（理想-現実）の乖離が最も大きいのは「仕事」の▲20.7%で、次いで、「趣味」11.0%、「家族サービス」8.0%の順となっており、「仕事」「子育て」「介護」「地域活動」は時間を減らし、「趣味」「家族サービス」「友人・知人との付き合い」「生涯学習」を増やしたいという傾向が見られる。

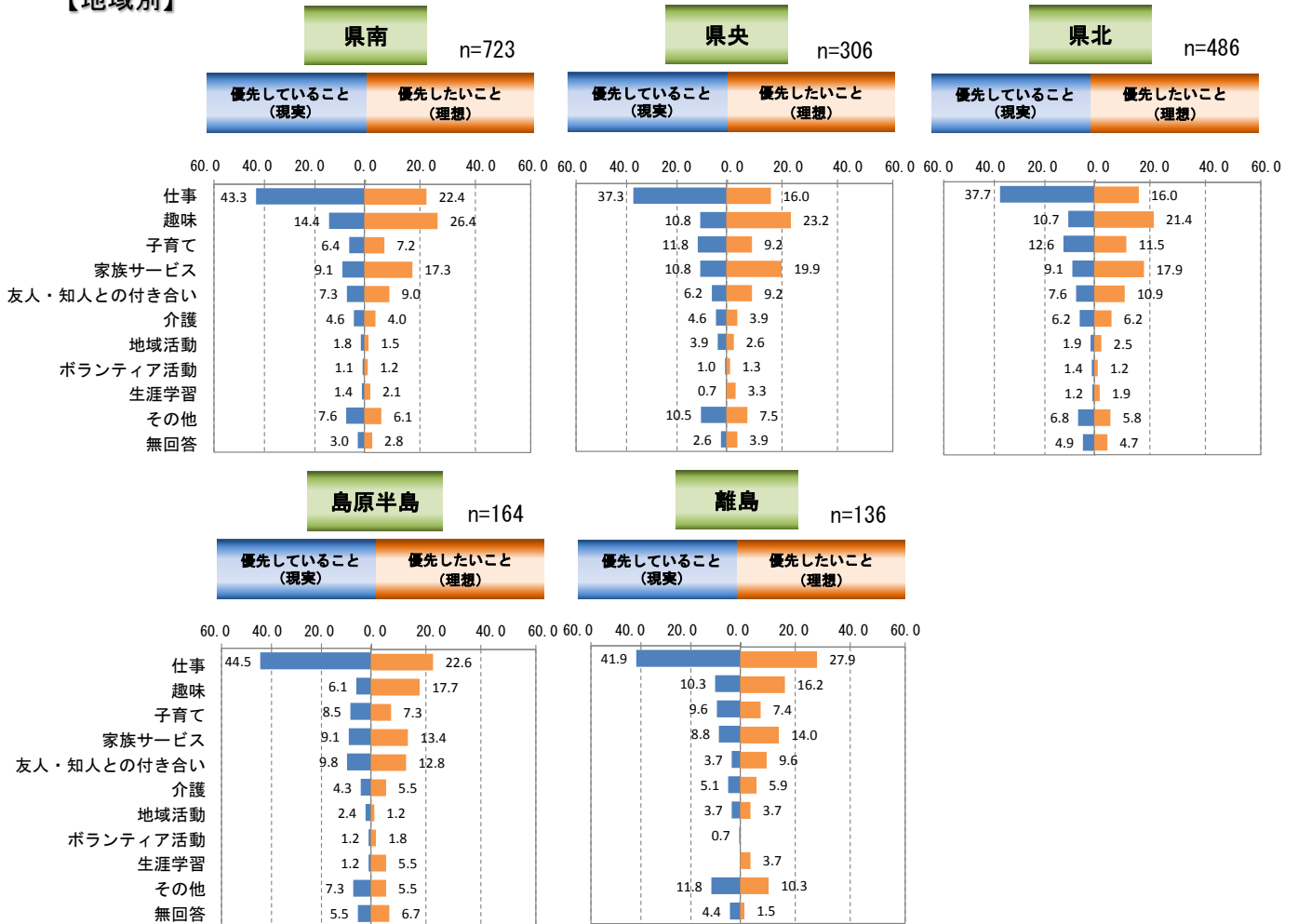
### 〔地域別〕

日常生活で優先していること（現実）では、全地域で仕事が第1位となっている。地域別での相違を全体の上位三項目と比較すると、県南地域で「子育て」に代わり「家族サービス」、県央地域・県北地域で「趣味」に代わり「子育て」、島原半島地域で「趣味」「子育て」に代わり「友人・知人との付き合い」「家族サービス」が入っている。

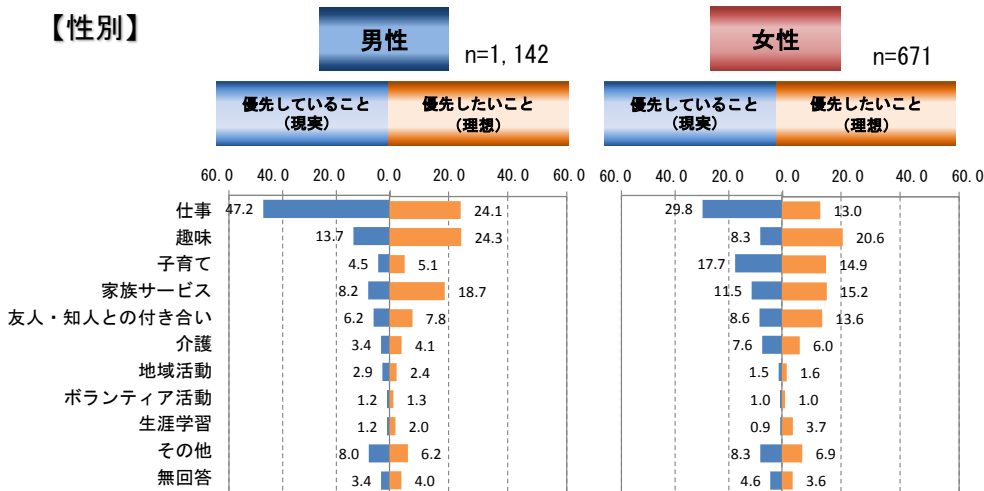
一方、日常生活で優先したいこと（理想）の1位は県南地域・県央地域・県北地域は「趣味」、島原半島地域・離島地域は「仕事」となっており、優先したいことの理想と現実（理想-現実）の乖離が最も大きいのは全地域「仕事」となっている。



## 【地域別】



## 【性別】



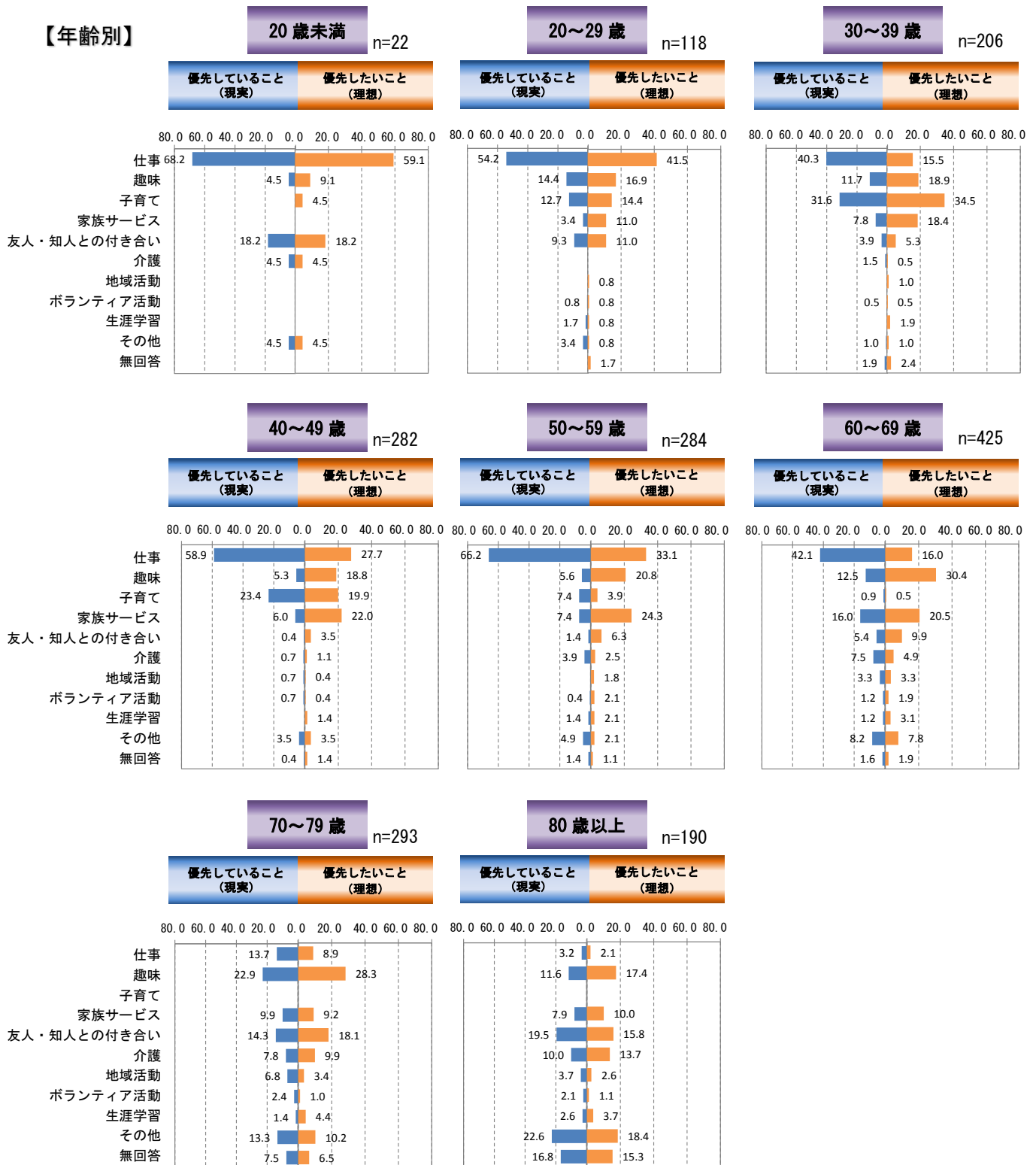
## 〔性別〕

日常生活で優先していることを性別で見ると、男性は「仕事」が47.2%で最も多く、次いで、「趣味」・「家族サービス」の順で続いており、女性は「仕事」29.8%が最も多く、次いで、「子育て」・「家族サービス」の順となっている。

また、優先したいことで、「男性」は「趣味」24.3%、「仕事」が24.1%、「家族サービス」18.7%の順で続き、「女性」は「趣味」20.6%、「家族サービス」15.2%、「子育て」14.9%の順で続いており、理想と現実の乖離が最も大きいのは男女とも「仕事」となっている。

日常生活で優先していることは男女とも「仕事」がトップとなった。女性は2位「子育て」、3位「家族サービス」となっているが、男性は2位「趣味」、3位「家族サービス」と意識の違いがうかがえる。

【年齢別】



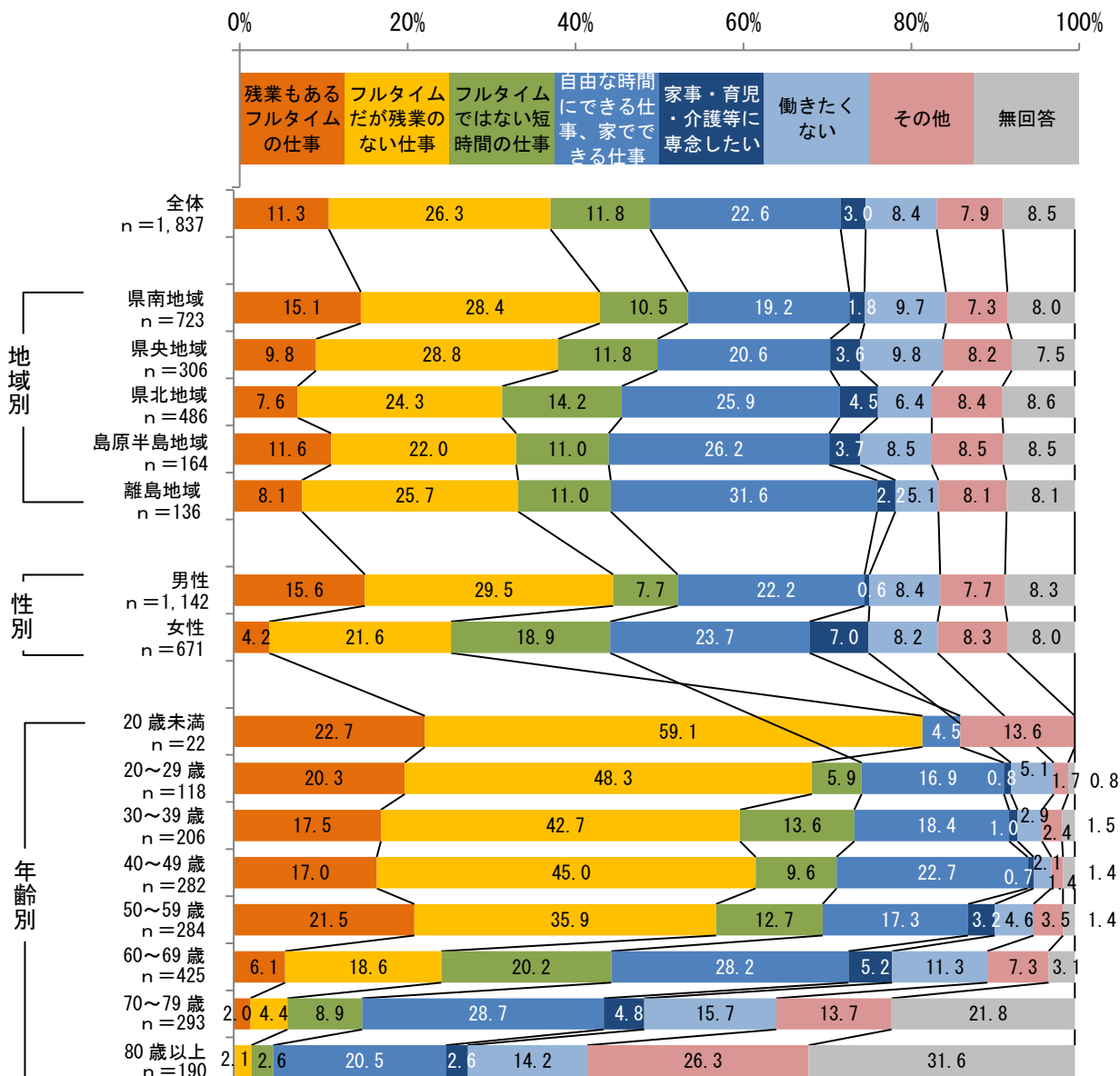
【年齢別】

日常生活で優先したいことで、全体との傾向の大きな相違は見られないが、「30~39歳」は「子育て」が34.5%で1位となっている。

また、ほとんどの世代で「仕事」において「理想」を「現実」が大きく上回り、仕事を減らして他の活動を優先したいと考えている。「70~79歳」・「80歳以上」では現実と理想の大きな乖離は見られないが、相対的に「趣味」や「介護」を優先したい傾向が見られる。

問 3

あなたの日常生活についてお聞きします。  
3-3 あなたが希望する働き方はどのような形態ですか。(〇は1つ)



【全体】

理想とする働き方は、「フルタイムだが残業のない仕事」が26.3%で最も多く、次いで、「自由な時間に行える仕事、家でできる仕事」22.6%、「フルタイムではない短時間の仕事」11.8%の順で続いている。

【地域別】

県南地域・県央地域で「フルタイムだが残業のない仕事」の希望が最も多く、県央地域は28.8%となっている。また、県北地域・島原半島地域・離島地域では、「自由な時間に行える仕事、家でできる仕事」への希望が最も多くなっている。

【性別】

女性は「残業もあるフルタイムの仕事」が男性よりも11.4ポイント低く、「フルタイムではない短時間の仕事」が男性よりも11.2ポイント高くなっている。

【年齢別】

50歳代以下の年代では、フルタイムでの仕事（残業有+残業無）を希望する割合が最も高くなっているが、年齢の上昇に伴い「残業もあるフルタイムの仕事」「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が低くなり、60歳代では「フルタイムではない短時間の仕事」「自由な時間に行える仕事、家でできる仕事」の割合が高くなっている。

## 2. 県政全般の重要度・満足度

県の政策に対する県民の意向による施策の重要度を定期的に把握し、今後の県政運営のための基礎資料とするため、県の政策における重要度と満足度についてお尋ねしました。

今回の調査では、県民の考える政策の重要度の上位項目は、前回調査と比べ項目の入れ替わりや順位の変動がありました。今回新たに項目として追加した「人口減少対策」が1位となり、前回1位であった「福祉の充実」が2位に順位を下げました。また、県政の総合的な満足度は、満足度、不満度とも変化がありませんでした。一方、どちらともいえないは減少したものの5割以上を占めています。

### 【県政の項目別満足度】

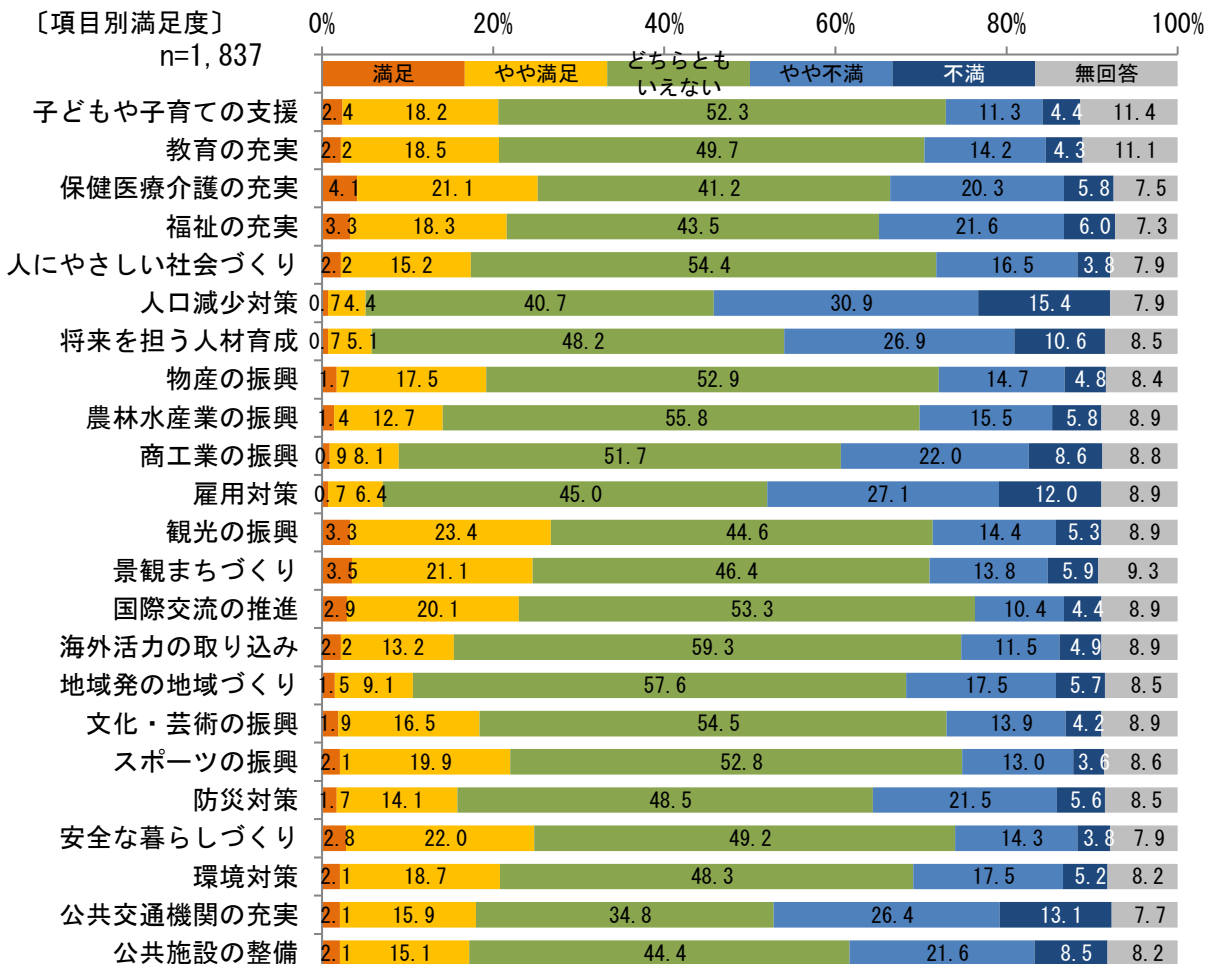
問 4 あなたが考える各項目の評価を5. 満足⇔1. 不満の中から選んで1つ○をつけてください。

県政の23分野について、それぞれの満足度を聞いた結果は以下のとおり。

項目別の満足度（「満足」＋「やや満足」）は、「観光の振興」が26.7%で最も高く、次いで「保健医療介護の充実」が25.2%、「安全な暮らしづくり」が24.8%、「景観まちづくり」が24.6%、「国際交流の推進」が23.0%と続いている。

一方、不満度（「不満」＋「やや不満」）は、「人口減少対策」が46.3%で最も高く、次いで「公共交通機関の充実」が39.5%、「雇用対策」が39.1%、「将来を担う人材育成」が37.5%、「商工業の振興」が30.6%で続いている。

満足度が不満度を上回ったのは「国際交流の推進」「観光の振興」「安全な暮らしづくり」「スポーツの振興」「景観まちづくり」「子どもや子育ての支援」「教育の充実」「文化・芸術の振興」の8項目であった。

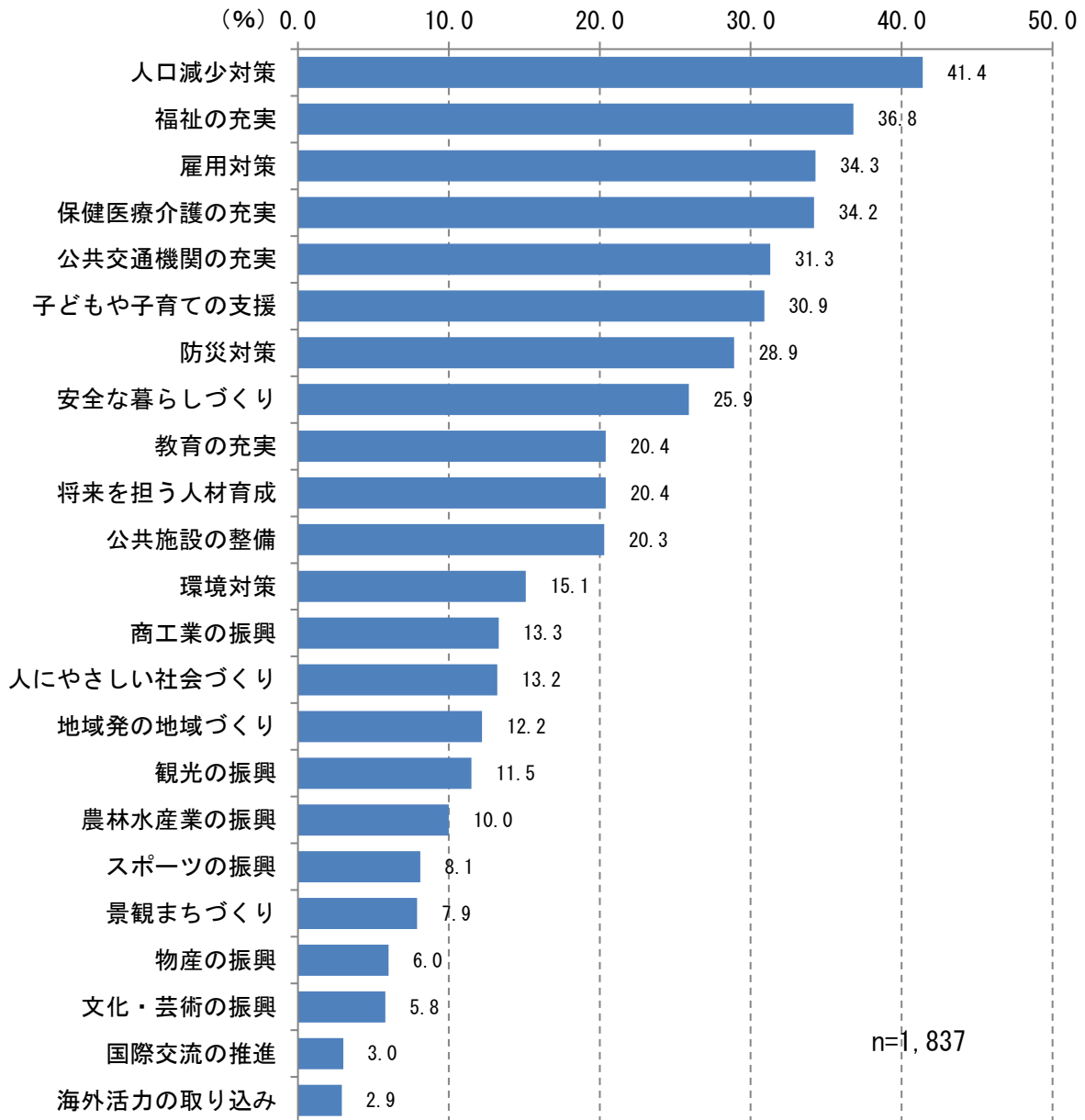


【県政全般の重要度】

問 5

あなたは、今後、県がどのような分野に力を入れて行くべきだと思いますか。  
 (問4の1～23の分野の中から5つまで選んで回答欄に数字を記入してください)

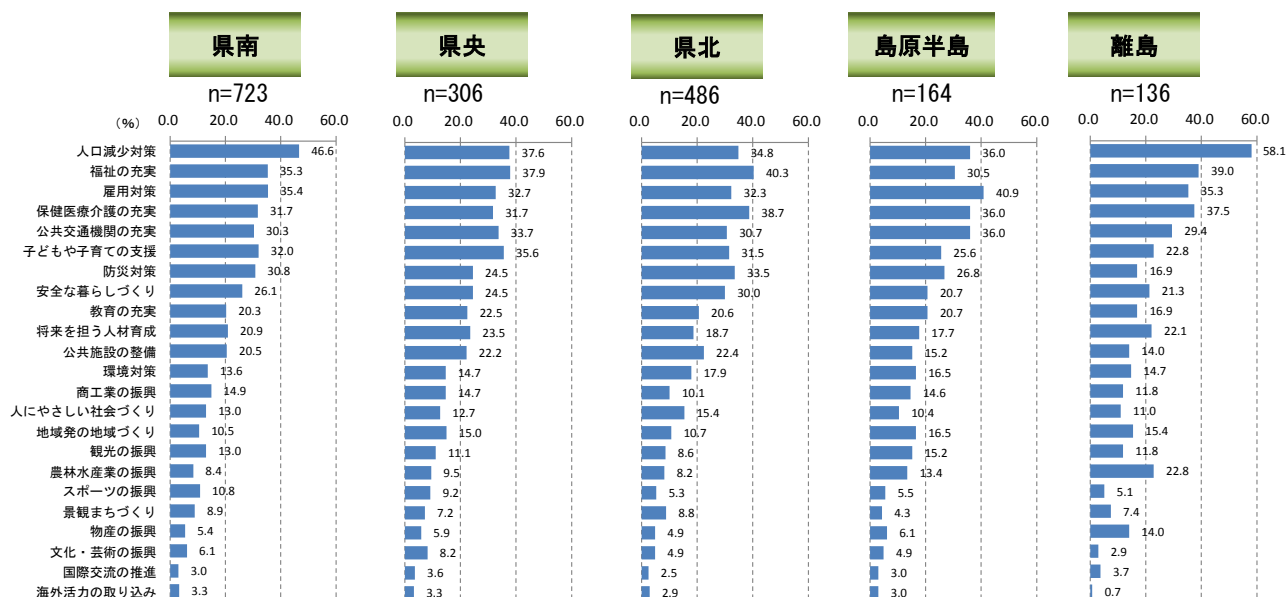
〔重要度の高い順〕



〔全体〕

今後、県が力を入れて行く分野としては「人口減少対策」が 41.4%で最も多く、次いで、「福祉の充実」36.8%、「雇用対策」34.3%、「保健医療介護の充実」34.2%、「公共交通機関の充実」31.3%の順で続いている。

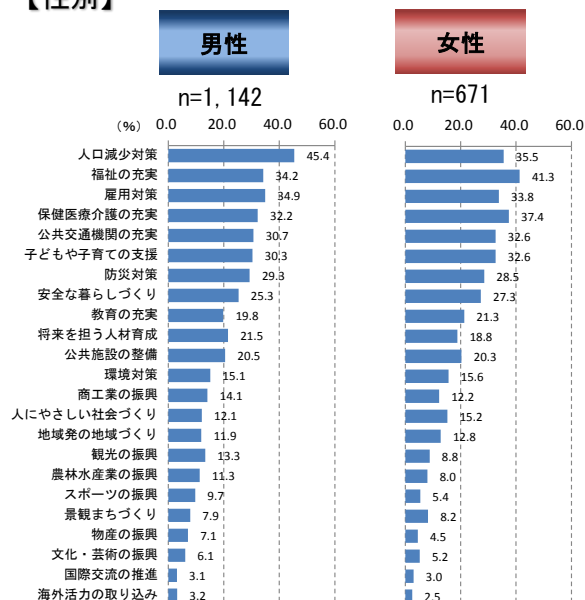
## 【地域別】



## 【地域別】

上位5項目は全体と大きな相違は見られないが、県南地域は「公共交通機関の充実」に代わり「子どもや子育ての支援」、県央地域は「保健医療介護の充実」に代わり「子どもや子育ての支援」、県北地域は「公共交通機関の充実」に代わり「防災対策」が上位5位内に入っている。  
また、離島地域は、「農林水産業の振興」が他地域よりも10ポイント以上高くなっている。

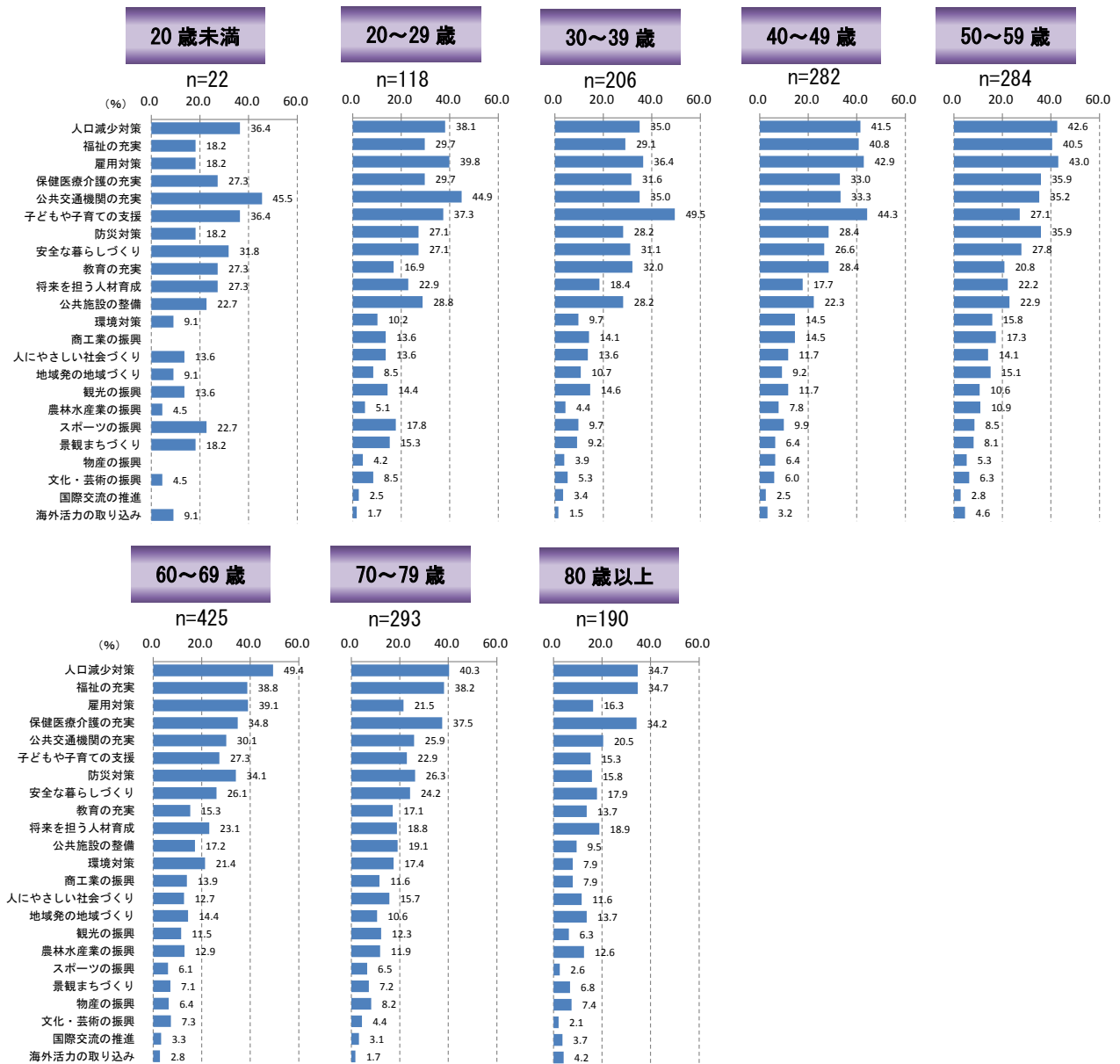
## 【性別】



## 【性別】

上位5項目の相違は、男性で「福祉の充実」と「雇用対策」の順位が入れ替わっており、女性は「福祉の充実」が1位、「保健医療介護の充実」が2位に繰り上がっている。

## 【年齢別】

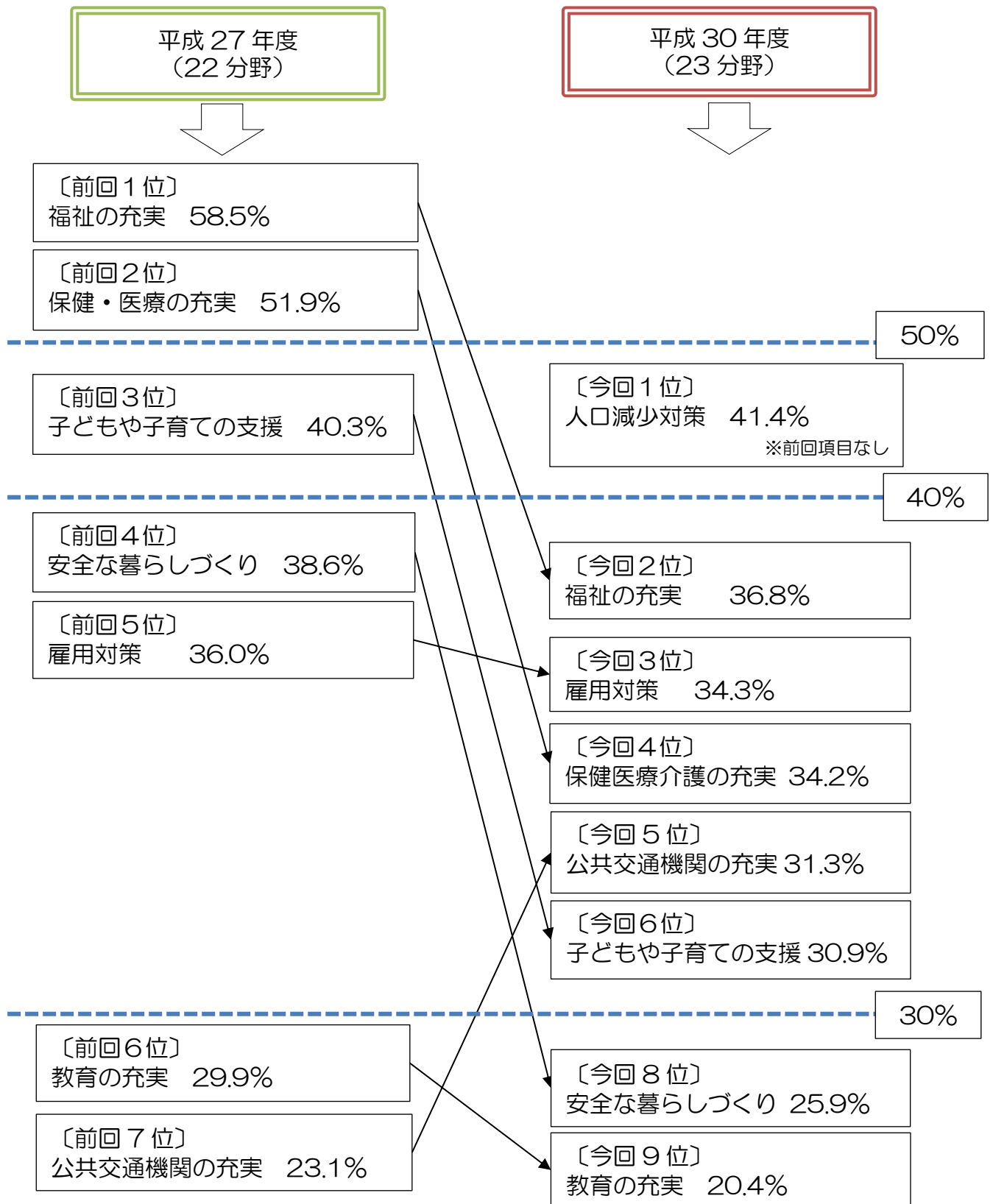


## 【年齢別】

年齢の上昇に伴い「公共交通機関の充実」の割合が低くなり、「子どもや子育ての支援」は年齢の上昇とともに増加するものの、30歳代をピークに減少に転じている。

また、「人口減少対策」も年齢の上昇とともに増加し、60歳代での約50%をピークに減少となっている。

「今後力を入れて行くべき分野」上位項目の前回調査との比較



「今後力を入れて行くべき分野」は、新たな項目の「人口減少対策」が 1 位となり、前回 1 位の「福祉の充実」は 2 位、前回 2 位の「保健医療の充実」は 4 位、前回 3 位の「子どもや子育ての支援」は 6 位など順位を下げている。

一方、順位を上げているのは、前回 5 位の「雇用対策」が 3 位、前回 7 位の「公共交通機関の充実」が 5 位となっている。

これは、雇用環境や出生率が改善傾向にある反面、若者の県外流出は続いており、人口減少・少子高齢化の進行が背景にあるものと考えられる。



## 【県政の総合的な満足度】

問 6

県の政策の総合的な満足度をお聞かせください。(問4の1～23の分野の総合評価)  
5. 満足⇔1. 不満の中から選んで1つ○をつけてください。

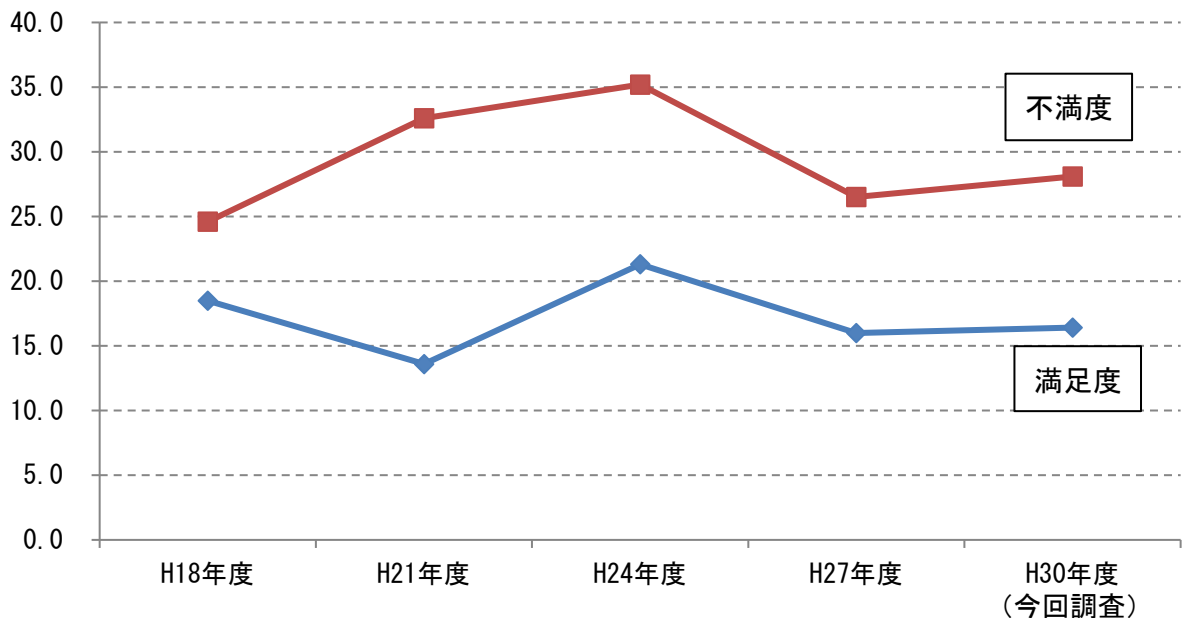
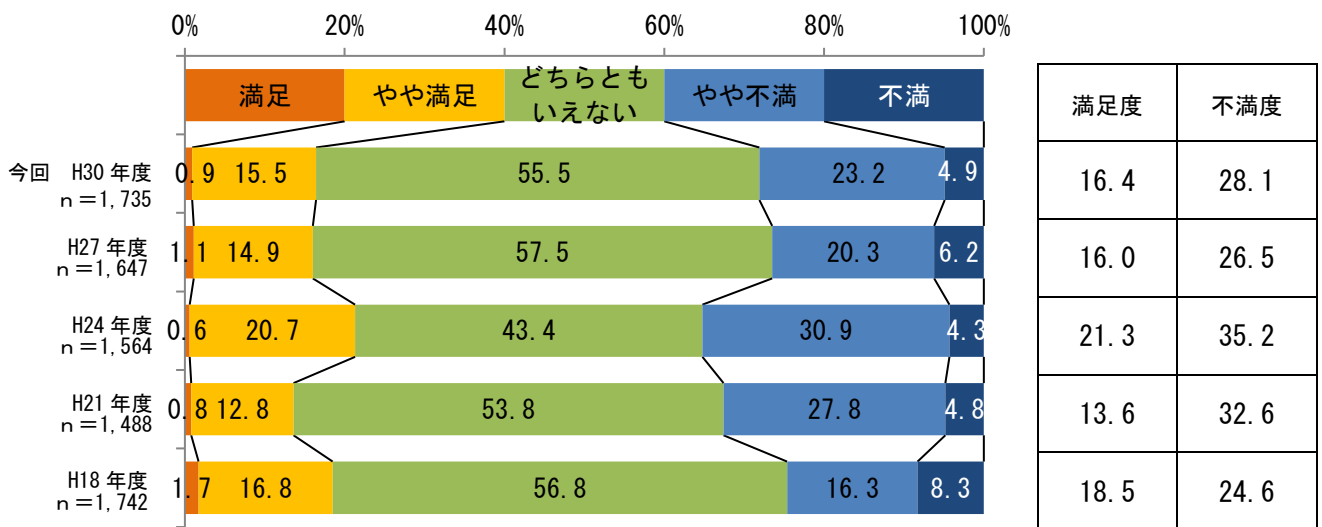
県政の総合的な満足度を前回調査と比較すると、「満足」「やや満足」の合計（満足度）と「やや不満」「不満」の合計（不満度）はほぼ変わらない。また、「どちらともいえない」は55.5%と2.0ポイント減少している。

地域別で満足度が最も高いのは「県南地域」の17.9%、次いで「県央地域」が17.7%、「島原半島地域」が15.3%、「県北地域」が15.0%、「離島地域」が11.3%の順となっている。一方、不満度が最も高いのは「県南地域」の31.4%であった。

性別では、男性が女性よりも満足度で5.4ポイント、不満度で3.4ポイント高くなっている。

年齢別で満足度が最も高いのは80歳以上の30.2%、次いで70歳代が22.4%、20歳未満が20.0%で続いている。一方、不満度が最も高いのは50歳代の32.7%であった。

〔県の政策の総合的な満足度の経年比較〕



[地域別・性別・年齢別県政の総合的な満足度比較]

